

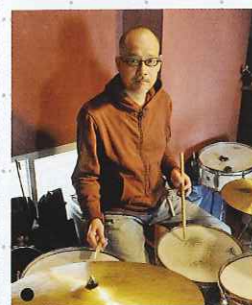
close up!

驚きの効果&実力を検証!! 話題のシンバル・ワッシャー／ミュート

CYMPAD[®]

„optimize your cymbal sound“

シンバルのサウンドを追求するドラマーの間で、すでに話題となっているスイス生まれの CYMPAD (シンパッド)。シンバルを載せる、または挟む“シンバル・ワッシャー”を、従来のフェルト製ではなく、発泡ポリウレタン製とし、音の伸びやシンバルの保護などの目的を超え、さらに複雑な音域を持つシンバルの音質を損なわずにミュートするという、新たな分野にまで踏み込んだ画期的な製品である。ここでは日本での正規輸入以前から愛用しているドラマー／パーカッションリスト、芳垣安洋に、新たにライナップに加わったライド専用も含め試奏してもらった。その効果、実力を検証する!



試奏:芳垣安洋

[Orquesta Nudge! Nudge!, Vincent Atmicus, Orquesta Libre, ROVO, etc.]

撮影:星野俊(*),菊地英二(●)
文:リズム&ドラム・マガジン編集部

Optimizers [オブティマイザー／シンバルワッシャー]

通常のシンバル・ワッシャーとして使用するが、このオブティマイザー。フェルトのワッシャーよりも耐久性が高く、シンバルの保護にも長けているという。鮮明なシンバル・サウンドとなり、さらにロング・サステインが特徴とのこと。



●40×8mm
5個セット:¥1,260



●40×12mm
5個セット:¥1,260



●40×15mm
5個セット:¥1,260
10個セット:¥2,310

CYMPADとの出会い

ヨーロッパに演奏に行ったときに、パリか、アムステルダムのレストランだっと思ったんだけど、そこでたまたま見つけて、“面白いものが置いてあるな”と思って買ったのが最初ですね。従来のフェルトのものよりもずいぶん柔らかくて、音色も違って、音も伸びるので、それからずっと使っていました。その楽器店には一種類(編註:オブティマイザー／シンバルワッシャーの40×12mmと同じ形状)しかなくて、材質も今のモデルよりは柔らかい(編註:ちょうどモデレーター／シンバルミュートと同じくらいの柔らかさ)みたいですね。

オブティマイザー／シンバルワッシャー

ライド用は、専用を謳っているだけあって、シンバルの種類——口径とか、厚さに関わらず、わりとどんなタイプのシンバルでも、チップのアタックの音と、余韻、シンバルの鳴り、倍音のウネリが、バランス良く鳴るように、うまくできているなって思いました。ちょっと高め倍音を残した形で、チップによるアタックはわりとハッキリ出ている、特に口径の大きいシンバルとか、薄い

シンバルだと、一番下の倍音が妙にウネったりすることが多いんだけど、そういうのが適度に抑えられています。シンバルの余韻もわりと自然に、通常のフェルト・ワッシャーに比べると、かなり長い感じがします。

3種類の厚さのもの(8mm / 12mm / 15mm)は、ライド専用のものに比べると、ちょっと重心が低い部分が強く鳴る感じがする。真ん中からちょっと下のあたりの倍音が結構出ると、チップのアタックも上よりは下が強調整されて聴こえる感じがします。コツコツさせたい人、そういうのを強調したい人はこっちを使ってみるのもいいかなと思います。厚さによって、鳴りが伸びる音域が若干違うんだけど、これはシンバルの大きさとか厚み、シンバル自体の鳴り方によって違ってくると思います。ただ一番薄いやつ(8mm)と一番厚いやつ(15mm)を比べると、薄い方が、やっぱり下の方がより強調されている感じはあるかなと思いました。ただ、これもシンバルの鳴っている倍音にもよるので、このシンバルにはこれが合う／合わないは一概には決められないですね。

面白かったのは、16インチのクラッシュ、2種類を試したときですね。両方とも薄めでわりとすべての音域がウワッと鳴るようなタイプで、普通のフェルトだと、クラッシュ・ヒットすると、

音の減衰が、下の方が、グーンとウネって終わるような感じで消えていくんだけど、このシンバルワッシャーを使うと、上から下まで全部が自然に収まっていくので、音の最後がウネる感じがほとんどしなかったんですね。全部の鳴りが自然に、バランス良く鳴っているのが面白いなと思いました。実際にシンバルの鳴っているのは、多かれ少なかれ、全部の音域が同じだけ減衰するわけじゃなくて、どこかがグニャってなったりすると思うんだけど、これはすべての音域を同じくらいの長さ、同じ時間軸で減衰するように、減衰を抑えないようにうまく作っている気がしますね。

ハイハットのワッシャーは、かなり使い手の好みによると思うんだけど、例えば、わりとミュート(クラッチのワッシャーの締め具合)を緩めにして、踏み込んだときにザクッと鳴らしたい人にはちょっと向かないかもしれない。ワッシャー自体が硬いので、レスポンスの余裕という意味ではちょっと幅が狭い。特に——自分が使い込んだやつと新しいものを比べてみたんだけど——新しいうちは、そういう融通はちょっと利きにくい。踏み込み具合とか、例えば足でシンバルを合わせて鳴らすのなんかは、ちょっと使い込んでやるか、普通のフェルトの方がいいという人はいるかもしれないですね。ただ、ハイハット・シンバル

Moderators [モデレーター／シンバルミュート]

シンバルを載せる下部のワッシャーとして使うことで、シンバルの響きを調節することができるのがこのモデレーター。音質自体を損なわず、というのが特徴とのこと。シンバルの口径、厚さによって、各サイズをチョイスする。



●50mm
ダブル(2個)セット:¥735



●60mm
ダブル(2個)セット:¥840



●70mm
ダブル(2個)セット:¥945



●80mm
ダブル(2個)セット:¥1,050



●90mm
ダブル(2個)セット:¥1,260



●ハイハットクラッチ&シートセット



* 40×15mm 専用ディスプレイのある楽器店では、1個(¥237)から購入が可能。



hi-hat-seat 50mm
クラッチ 2個&
シート 1個セット:¥840

●ライド 40×17mm
2個セット:¥735



●キューブ

50 / 60 / 70 / 80 / 90 / 100mm,
各1個入り:¥2,940
※100mmの大口徑モデレーターは
キューブのみに入る。



●ボックス

50 / 60 / 70 / 80 / 90mm,
各2個入り:¥4,410



*
▲40×15mmのオブティマイザーを指で握るとご覧のように、適度な柔らかさがある。リハーサル・スタジオなどで長期間シンバルと共にスタンドにセットしたままにすると、シンバルの重みでつぶれてくる可能性があるが、一端スタンドから外して、1日程度置くと、元に戻るという。耐久性もバッチリだ。

がザットと、ザットと、ザリッと鳴っている部分の音が非常にキレイに出るんです。そういう音を強く出したいと思っている人は試してみる価値はあると思います。アクションに対して、クラッチとの相性もあるし、どのくらいがコントロールしやすいかって問題はあると思うんだけど、音のキレイさとか、全体の音が均等にキレイに鳴っている感じっていうのが、特にハイハットをすり合わせたりとか、ハーフ・オープンとか、ウラ拍でシャット切ったりだとか、そういうときには、この音色の効果が大きく発揮されると思いますね。

モデレーター／シンバルミュート

チップのアタック音と、シンバルが鳴っている音、倍音の感じのバランスを変えられるっていう意味で、面白いミュートだと思ってますね。例えばガムテープを貼るとか、シンバル全体に対してテープを貼るミュートの仕方なんかとはちょっと違って、低音の独特な部分だけが強調されたりとか、(モデレーター)の口径の大きいものをつけていくと、アタックと、上の方の成分がグッとミュートされていく。そうすると、逆にシンバル(ボウ)の真ん中の部分だけが鳴っていて、全体が鳴っている感じがちょっと薄れていっちゃう。

そういうことはあるんだけど、どうしても響き過ぎるとか、他の音が気になるような場所で、手軽にミュートをするってことを考えると、かなりの優れものだと思います。どうしてもカップのところミュートしてるから——それは仕方ないんだけど——口径の大きいミュートになると、カップの音が鳴らなくなっちゃう。ただ、逆にわざとそういうミュートを使って、ちょっと面白いアタックの、響きの多くないシンバルとして、刻みに使ってやることもできるので、使い方も含めていろいろやってみたらいいと思います。これもシンバルによってどの大きさのものが適しているかっていうのが、実際に使ってみないとわからないですね。だったら全部買わなきゃいけないってことになっちゃうんだけど(笑)。自分の場合は、80mmを24"の薄めのライドで、ちょっと音を抑えなきゃいけないときにつけることが多いですね。ただそれも、同じ24"の薄めのライドでも、イスタンブール・アゴップの30周年記念モデルと、アゴップのトラディショナル・ミディアム・ライドとで、全然倍音の出方が違うので、トラディショナル・ミディアム・ライドの方が80mmよりも小さいものをつけることが多いかな。一応、4種類くらいをシンバル・ケースの中に入れて、場所によって使い分けています。

買い方／選び方

まずはライド用のワッシャー(オブティマイザー)と厚さ15mmのワッシャーの2つを試してみて、例えばライド用じゃないものの方が、自分にとって欲しい低い成分がある、でもミュートしたい、って思ったら、ミュート(モデレーター)の方に手を出していくという方法で広げていくのがいいかなと思います。特に80mmとか、90mmとかって、自分の場合の24"みたいに、特殊なミュートっていう考え方なので、そこから始めるんじゃないで、50mmとか60mmとかっていうのを使って、これくらい抑えられたらいいかなって思ったら、それでいいんじゃないでしょうか。もちろんシンバルは何も抑えずに鳴らしてバランスがとれればそれが一番いいんだけど、なかなかその場所の響きだったり、他の楽器との兼ね合いで、これ以上シンバルが鳴っちゃうとバランスがとれなくなるってときがある。そういうときにはものすごく便利ですね。余裕がある人は1セット買って、いろんなシンバルで鳴り方の違いを試してみたら面白いと思います。